

## 一般 農業用ため池における治水対策

東 和子 (みどり21)



農業用ため池は、農業用水を安定的に供給するために築造され、かんがい用水の確保のほか洪水の調節や土砂流出防止、生物の生息、生育の場、地域の憩いの場の提供など多面的な機能を有し、重要な役割を果たしている。

しかしながら、近年、農業者の高齢化や離農などによる荒廃農地の増加が進み、また都市部に近い地域では農地が宅地や商業施設等に転用されるケースも増加し、水田の利用面積は徐々に減少している。

① 市の農業用ため池の件数を伺う。  
 市内には95箇所、農業用ため池があり、菊川地域に59箇所、小笠地域に36箇所が所在している。

② 農業用水路の断面改良、井堰、水門の改良及び井堰管理の方策を樹立し浸水防止に備えるところがあるが、どのような計画か伺う。

③ 農業用水路の断面や井堰、水門の改良は、施設の更新・改修に併せて検討する。また、井堰管理について

では、かんがい期や非かんがい期における適切な管理方法及び適切な管理が浸水防止につながることを農業者の皆さまに周知していく。

④ 排水路の新設や合流点の改良について計画内容を伺う。

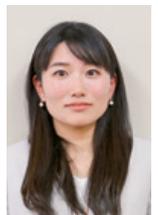
⑤ 市では地元自治体からの要望や排水不良が発生している箇所の確認を行い、その原因を調査し対応しており、その対応については、排水不良の原因が土砂の堆積であれば浚渫を実施し、排水断面が不足していれば改修工事の補助や工事を実施している。



耐震対策完了ため池(北之谷池)  
 (上:着手前) (下:完成)

## 一般 子ども・若者施策について

須藤 有紀 (みどり21)



20年、30年先の未来を見据えたまちづくりのために、見解を伺う。

① 菊川市の魅力をどのように捉え、発信していくのか。

② 移住希望者が重視する便利さ、快適さ、心の余裕を満たすまちであることが大きな魅力。今後は20周年記念動画コンテストの入賞作品なども活用し、動画配信を強化する。また、地域おこし協力隊を募集する。

③ 相談・支援体制整備の具体的な展望は。

④ 子ども・若者のやりたい、やってみたいを今以上にサポートするため、若者に寄り添い活動などを支援するユースワーカーを確保する予定。

⑤ 社会に関わることでできない、声を上げられない子ども・若者へのアプローチは。

⑥ 県設置のオンラインプラットフォーム「こえのもりしずおか」を活用し、全ての子ども・若者が意見を表明する機会を確保するとともに、

教育委員会と連携して制度の周知を図り、意見をまちづくりに反映するよう努めていく。

⑦ 県が行うネクストイノベーターの創出等、県と連携した施策は。

⑧ 本市における若者の起業家育成は、起業に関心を持つきっかけづくり、働き方の選択肢となる取組が必要。学生を対象に市内で起業した人の話を聞くイベントの開催や、起業に関心を持った学生をENGAWAでサポートするなど、独自の新たな取組を今後検討し実施していく。そして、県の事業への参加につながるよう取組を進める。

他に「農業施策」について質問しました。

